

第10次札幌市環境審議会
環境保全対策を通じたまちづくり検討部会
第3回会議

会 議 録

日 時：平成28年10月18日（火）午後1時30分開会
場 所：札幌市役所 地下1階 1号会議室

1. 開 会

○大沼部会長 それでは、定刻となりましたので、ただいまより、第10次札幌市環境審議会環境保全対策を通じたまちづくり検討部会第3回会議を開催いたします。

まず、事務局より、委員の出席状況の報告と配付資料の確認をお願いいたします。

○事務局（金網環境計画課長） お忙しいところ、ご出席いただき、ありがとうございます。

事務局から、まず、委員の出席状況についてご報告をいたします。

本日は、永田委員と松田委員から欠席のご連絡をいただいております。また、石塚委員は30分ほど遅参するというご連絡がありましたので、間もなくいらっしゃると思います。

11名中9名の出席ということで、札幌市環境審議会規則第4条第3項により、この会議が成立していることをご報告いたします。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。

お手元の資料をご確認ください。

一番上に次第がありまして、上から、委員名簿、座席表、次に、右肩に番号を振っておりますが、資料1が基本計画の全体構成（案）、資料2が基本計画の中で示す将来像と施策の柱（案）、これは、その考え方等を含めてホチキスどめになっております。次に、資料3が各施策の柱における取組内容（案）、これもホチキスどめで2枚とじております。

次からが参考資料で、参考資料1が計画の策定に向けた経過です。参考資料2は、これまでの審議会、部会でいただいたご意見をまとめてご置きます。参考資料3が市民ワークショップ等の結果をまとめております。最後に、参考資料4が札幌市環境基本条例のコピーをお配りしております。

また、北大学術交流会館ロビーに集合と書かれているカラーの資料については、大崎委員から情報提供ということで資料をいただいております。

以上が皆さんにお配りした資料ですが、足りないものはございませんか。

事務局からは以上でございます。

2. 議 事

○大沼部会長 ありがとうございます。

それでは、次第に従って議事を進めたいと思います。

本日の議題は二つございます。

一つが、将来像と施策の柱についてですが、これは、午前中に行われた環境問題対応部会とも共通すると思いますが、このメンバーで改めて議論していただきたいということです。

二つ目が、各分野の取組内容についてですが、これは、この部会に特化した内容にもかかわってくると思います。

それでは、議事（1）から事務局の説明をお願いいたします。

○事務局（佐竹調査担当係長） 環境局環境計画課の佐竹です。本日はどうぞよろしくお願いたします。

まず、議事（１）第２次札幌市環境基本計画における将来像と施策の柱についてからご説明させていただきます。これは、９月１３日に開催された環境審議会でたたき台として案を出し、そこでいただいた意見などを踏まえて再構築したものです。

参考資料１に、部会等の開催スケジュールがあるのですが、９月１３日に開催した審議会の内容を踏まえて、１０月の時点で、再検討、まとめをさせていただきまして、１１月下旬ごろを予定している第４回審議会で、骨子案ということで検討をさらに進めていく形になります。その後は、起草委員会なども設置し、２月ごろに中間答申をいただき、今年度中に素案を作成していくというスケジュールで進めていければと思っております。

それでは、資料１に沿って、第２次札幌市基本計画の全体構成（案）についてご説明させていただきます。

全体構成として、始めに、第２次札幌市環境基本計画の目的と位置づけについては、２０５０年ごろの札幌市の将来の姿を見据え、２０３０年度までの施策の方向性を示すもので、２０１７年度中に計画を策定いたしますので、計画期間は、翌年度の２０１８年度から２０３０年度と設定しております。

そして、１－１の社会的動向については、まず、国内外の動向を踏まえられればと思っております。地球温暖化とエネルギー問題にかかわってＣＯＰ２１の話などありますが、来月、ＣＯＰ２２が開かれますし、パリ協定も発効予定となっておりますので、そういった計画策定時の動向などを踏まえて記載していきたいと考えております。

また、１－２の札幌の現状とこれまでの取り組みについては、札幌の都市構造や、これまでの札幌における環境問題の変遷、歴史的な部分も含めて、良好な環境が維持され、保全されてきたということを書いていければと思っております。

そして、２で、札幌の特徴と市民が望む札幌市の将来を描き、３で、札幌が目指す将来像を示し、４で、その将来像に向かって、環境保全における課題と施策の方向を洗い出して、５で、その課題を踏まえた施策の柱を書いていければと思っております。この２から５までについては、資料２でご説明させていただきます。

それから、６で、各施策の柱における取組内容をまとめていきたいと思っております。これは資料３に記載しており、議事（２）でご議論をいただければと思っております。

さらに、７と８で、環境首都・ＳＡＰＰＯＲＯ（仮）の実現に向けた先導プロジェクトや、推進体制とロードマップも書いていければと思っておりますが、これは、計画骨子作成後に検討することにさせていただいております。

そして、資料の右下に、参考として、現行計画における環境施策に関する主な条例や計画の体系、及び、現行の環境基本計画と主な個別計画の関係を示しております。これは、毎年度発行する環境白書に掲載されている環境基本計画とその他の計画などですが、第２次計画を策定する段階で、その他の計画との整合などの整理を行っていききたいと思ってお

ります。

以上が全体構成です。

続きまして、資料2についてご説明させていただきます。

これは、資料1の2から5までをまとめたものですが、中身としては、将来像を具体的にイメージし、その将来像に向けた札幌市における課題の洗い出しと、施策の柱立てをしていきたいと思っております。

資料2の将来像と施策体系をご覧ください。

将来像、目指す姿については、世界に貢献していく持続可能な都市「環境首都・SAPPORO（仮）」を掲げておりまして、このキーワードを導き出すために、資料の構成と意見の反映ということで、資料2-1で、札幌市の環境保全に関する理念やポジション、視点をまとめております。

前回の審議会の中で、将来像や施策の柱立てのストーリーが少し弱いというご意見もいただきましたので、こういった理念やポジションなどを踏まえて描いていければと思っております。

さらに、将来像の具体的なイメージということで、将来像を考える上でのキーワードとして、人、コミュニティ、産業、ネットワーク、都市・インフラ、自然と書いてありますが、それを受けて、資料2-2と資料2-3で、札幌の特徴と市民が考える札幌に必要なことを導き出していきたいと考えております。

また、施策の柱については、資料2-4で、札幌市の環境保全における課題を洗い出して、そこから、低炭素社会や循環型社会のような施策の柱立てをしていければと思っております。

その右側は、将来像の具体的なイメージや、施策の柱と取り組み内容の概略をまとめたものですが、後段の資料で詳しく出てきますので、一旦はご参考までということにしたいと思います。

資料2の構成はこのような形になっております。

それでは、資料2-1から順に説明をさせていただきます。

資料2-1は、札幌市の環境保全に関する理念やポジション、視点と、そこから導き出される2050年に向けた将来像を描いております。

前回の審議会の中で、将来像と理念を出させていただいたのですが、理念は果たしてそれでいいのかというご意見などもありまして、再度いろいろ見返したところ、環境保全に関する基本理念として、札幌市環境基本条例の第3条では、第1項で、「環境の保全は、市民が健康で安らぎや潤いが実感できる快適な生活を営む上で必要とする良好な環境を確保し、これを将来の世代へ継承していくことを目的として行わなければならない。」と規定しております。

また、第2項で、「環境の保全は、市、事業者及び市民が自らの活動と環境とのかかわりを認識し、環境への十分な配慮を行うことにより、環境への負荷が少なく持続的に発展

することができる都市を構築することを目的として行わなければならない。」と規定しております。

さらに、第3項で、「地球環境保全是、市、事業者及び市民が自らの問題としてとらえ、それぞれの事業活動及び日常生活において積極的に推進されなければならない。」と規定しております。

そして、第4項で、「環境の保全是、市、事業者及び市民のすべてがそれぞれの責務を自覚し、相互に協力・連携して推進されなければならない。」と規定しております。

こういった理念を踏まえて、その下に、札幌のポジションを書いておりますが、三つの大きな視点について解説させていただきます。

一つ目は、札幌の恵まれた環境を次世代に引き継ぐための持続可能なまちの形成ということですが、北海道の自然からさまざまな恩恵をいただいておりますし、恩恵だけではなく、北海道経済の中心都市として、エネルギーや資源を大量に消費しているという状況もありますので、自然環境を守り、将来にわたって都市を維持していくために、次世代に引き継ぐ持続可能なまちの形成という視点があると思います。

二つ目は、北海道の中心都市としての国内外に向けた発信力の強化ということですが、人口が多だけでなく、国内外から1,300万人以上の観光客が訪れる北海道の中心都市として、都市と自然が調和した札幌市の魅力を、国内のみならず、世界へも発信していくことで北海道を牽引していく役割があると思います。

三つ目は、国際的な環境問題への環境首都としての貢献ということですが、地球温暖化だけではなく、生物多様性の損失や、PM2.5などの越境汚染など、地球規模の環境問題が顕在化している中、「環境首都・札幌」を宣言した札幌市として、世界に誇れる環境都市を目指す札幌市の責務を感じ、市域にとどまらず、広く世界に目を向けた都市づくりを目指すという視点があると思います。

この札幌のポジションを踏まえた視点を右上に書きましたが、今後の「環境首都・札幌」としての視点については、良好な環境の保全が一つです。

もう一つは、環境首都としての地球環境の改善への寄与ということで、地球温暖化を初めとした地球規模の環境問題への対応の強化や、「環境首都・札幌」のイメージの国内外への波及、環境関連企業や団体との連携、技術開発等による国内外への発信、北海道内のネットワークの構築を視点として入れました。

そして、将来像としては、世界に貢献していく持続可能な都市「環境首都・SAPPORO(仮)」というコンセプトを出しております。

この世界に貢献していくという部分については、さまざまな捉え方があると思いますが、下に三つ書いております。

一つ目に、市民一人一人が心豊かでより快適な生活を営み、将来にわたって持続的に暮らすことができる都市というのが条件としてあり、二つ目に、地球温暖化対策や生物多様性の保全により、地球規模の環境問題の解決に貢献していく都市ということで、市域の取

り組みが世界にも広がるといった間接的な貢献があつて、三つ目に、持続可能な都市を形成するための技術やサービスが生み出され、それが国内外に波及し、世界に貢献していく都市として、海外への直接的な貢献という段階があると思ひますが、そういったものを含めて、世界に貢献していく持続可能な都市という将来像を描いております。

その将来像に対する具体的な姿を導き出すために、資料2-2で、札幌の特徴と市民が考える札幌に必要なことという整理を行つております。

前段のリード文については、かぶっている部分がございますので、札幌の特徴という部分からご説明させていただきます。

札幌の特徴については、ワークショップやグループインタビュー、市民に向けアンケートなどからキーワードを導き出してはありますが、トップ、ミドル、ボトムとございまして、ボトムは地形や自然で、その地形や自然の上に、ミドルとして、まち、インフラや産業が構築されて、トップに、人、市民や事業者、営みやライフスタイルが成り立っているのかなと思ひます。

ボトムの地形や自然については、日本海型気候で、夏は爽やかで、冬は積雪寒冷の鮮明な四季の移り変わりが見られることや、石狩低地帯や豊平川扇状地に市街地や住宅地を形成しているため、近年の集中豪雨による浸水被害や土砂災害等、備えておくべき自然災害リスクは存在している状況であります。

また、定山溪や藻岩山など豊かな緑に囲まれ、山が見える景観は、市民の満足度の向上に寄与していますし、変化に富んだ地形や地質、恵まれた地理的条件によって、多種多様な動物、植物が見られたり、野生生物の生息地と都市が隣接しているという特徴があると思ひます。

ミドルのまちについては、都市が清潔で、ゆとりのある空間を形成しているほか、都市開発などにより、市街地の緑は他政令市と比較して必ずしも多くはない状況ですが、山や川に囲まれているので、そこに住んでいる人たちの満足度が高いということもあります。

また、人口減少、少子高齢化が進もうとしている中、都市の集約化が求められていることや、自家用車に依存したライフスタイルを改善するために、公共交通を中心としたまちづくりが必要であること、人口減少、少子高齢化による働き手の不足が懸念されることを挙げさせていただきました。

トップの人については、恵まれた自然や、成果を上げてきたごみの取り組みなどが市民の魅力になっておまして、アンケートをとって満足度が高い項目が、まさに自然とかごみの取り組みでございました。

ただ、同じくアンケートでは、環境行動に関して、省エネ設備の導入など自発的に取り組まなくてはならないものについては、まだ実践度が低い状況にあるとされております。

一方、環境教育によって、子どもたちの環境意識の向上が図られていることや、人口減少、少子高齢化によりコミュニティが希薄になるおそれがあることのほか、北海道の中心都市であり、消費型の都市構造であるため、一人一人の消費者意識が都市全体に影響する

ということも挙げられると思います。

真真中に、札幌に必要なことということで、キーワードを出しましたが、これは、市民ワークショップなどで出てきた札幌に今後必要なものというキーワードを書いております。例えば、コミュニティでは、町内会でのごみ回収をより進めるべきとの意見、ネットワークについては、市民やほかの地域への情報発信をさらに進めていくべきとの意見、インフラについては、歩けるまちづくりや自転車レーンの整備、また、高断熱・高気密な住宅などに関する意見が出ていたところです。

こういった意見などを踏まえて、重要となるキーワードとして六つ整理しましたが、まず、そこに住んでいる人、そして、人と人とのつながりであるコミュニティ、あとは、ネットワークや情報発信、産業、都市・インフラ、自然というキーワードを導き出しました。

これらを踏まえて、資料2-3で、2050年に向けた札幌が目指す将来像を描いております。大きな将来像の姿として、世界に貢献していく持続可能な都市「環境首都・SAPPORO（仮）」を出し、その下に、今説明したキーワードから、私たちが望む将来像のイメージを描いています。

人については、市民や事業者を含めたものと捉えておりますが、環境首都であることに誇りを持ち、環境配慮型のライフスタイルが身につけている状態として、札幌が環境首都であることを認識し、環境に配慮した暮らしや行動の実践を図っていること、持続可能性に対する理解と行動が結びついていること、また、札幌を囲む緑や水、雪や四季、都市そのものに対して魅力を感じ、その魅力を発信している人が住んでいること。

コミュニティについては、地域のつながりが活発で、積極的に環境活動を実践しているコミュニティが形成されていること。

産業については、札幌の地域特性を生かした新たな産業の創出と世界市場が形成されていること。

ネットワークについては、国内外に貢献していくまちであること。

自然については、良好な空気や水、豊かな緑、生物多様性が保全されていること。

都市・インフラについては、持続可能な都市を実現されていること。

これらを将来像のイメージとして書きました。

右側に、イメージ図として、六つのキーワードと「環境首都・SAPPORO（仮）」ということを書き、さらに、視点として、サステイナブルディベロップメントゴールズを入れました。持続可能な開発のゴールが国連で採択されており、その17のゴールに向けて、環境の側面からのサステイナブルという観点での目標も挙げられるとあって、ここに記載させていただきました。

ここで将来像を描いて、それに向けて今後どのように札幌市の取り組みを進めていったらよいかということで、資料2-4で、課題を出して施策の柱立てをするという形にしております。

資料2-4をご覧ください。

資料2-4では、札幌市の環境保全における課題と施策の柱をまとめております。

将来像に向けての課題としては、3点に分けて書いております。

①健康で安全な都市の実現については、基本的な課題としております。札幌は、かつて、冬季暖房に起因する大気汚染や、水質汚濁、スパイクタイヤの粉じん汚染など、著しい公害を経験し、対策技術の進歩や規制措置などにより解決を図ってきたという歴史がございます。

この良好な環境を今後も守り、より健康で安全な都市を実現していくために、引き続き、モニタリングとか、各種法令に基づく監視や指導体制の強化といった取り組みを進めていくということが課題としてあると思っております。

この部分に関しては、下にも書きましたが、交通への影響や雪かきなどの雪の課題も挙げられますし、気候変動の影響による異常気象災害への対応もこのカテゴリーに入ってくるかなと思っております。

②重点的に取り組むべき分野の課題については、一つ目が、地球規模で問題となっている地球温暖化に関する気候変動の緩和や、エネルギー対策です。二つ目が、廃棄物等の資源の循環、三つ目が、自然との共生ということで、この3点を重点的に取り組むべき分野の課題として挙げました。

③の効果的な施策の推進については、そういった直接的な対策だけではなく、その効果的な推進を支えるための市民に向けた環境教育とか、副次的効果として、経済活性化やコミュニティの活性化につなげていくことが重要ということで挙げさせていただいております。

これらを解決するための施策の柱立てを右側に持ってきています。

①健康で安全な都市の実現については、健康で安全な都市の実現という柱を一つ立てることができると思います。

②重点的に取り組むべき分野の課題については、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現という3本の柱によって、直接的に環境問題に取り組むということです。

③効果的な対策の推進については、環境施策の横断的、総合的な取り組みの推進として、全ての分野にかかわってくる取り組みを進めていくということで、環境教育や経済社会、コミュニティ活性化などを挙げております。

こういった5本の柱立てを行って、それを進めることにより将来像につなげていくという形にしたいと思っております。

それで、午前中の環境問題対応部会で、これはいつごろを目標にしているのかがわかりにくいというお話がありましたが、この柱立てについては、計画の中で、2030年を目指して今後どのように取り組んでいくかということを書いていくための施策の柱立てとして記載しておりますので、補足させていただきます。

資料2-5で、それぞれの柱の基本目標と内容を整理しております。柱ごとの内容については、資料3に詳細にまとめておりますので、ここでは割愛しますが、議題(2)でご

議論いただければと思います。

なお、それぞれの柱立ての目標については、少し定性的になるのですが、記載しております。

低炭素社会の実現については、徹底した省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの大幅な導入、水素エネルギーに関する技術開発等により、札幌市におけるエネルギー消費量や温室効果ガス排出量の削減を図るという目標立てをしております。

また、循環型社会の実現については、廃棄物のさらなる減量やリサイクルの推進など、持続可能な資源利用の推進を図ることとしております。

ただ、ここの記載内容については、現在、次期一般廃棄物処理基本計画を策定しておりますので、それと整合を図っていきたいと思っております。

そして、自然共生社会の実現については、生物多様性の確保や緑の保全と創出などにより、自然とともに暮らせるまちづくりの推進を図ることとしております。

その下の健康で安全な都市の実現については、良好な大気、水、土壌等の環境を維持するとともに、冬季に安全に暮らせるまちづくりや災害にも強いまちづくりを行うことで、健康で安全な都市の維持、実現を図ることとしております。

最後の環境施策の横断的・総合的な取り組みの推進については、環境保全対策を通じたコミュニティの活性化や環境教育等の推進によって、環境施策のより一層の推進を図ることとしております。

これに従って、資料3で、取組内容をまとめております。

資料2-6の将来像の実現に繋がる施策の効果については、参考までに見ていただきたいのですが、低炭素社会や循環型社会の実現のための取り組みを進めていくことによって、目指す姿で導き出した人やコミュニティ、産業といったキーワードに対してどう貢献していくのかということ为例示しております。

例えば、人については、環境首都であることに誇りを持ち、環境配慮型のライフスタイルが身についているという将来像を描きましたが、その中で、低炭素社会の実現に関する取り組みとしては、高気密・高断熱住宅の普及とか、市民による省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの導入促進によって、より低炭素な暮らしができることを実感していただいて、そういったまちに住んでいることに誇りを持って、さらに、自分も実践していくといった取り組みにつなげていければということで、それぞれのキーワードごとに整理しております。

資料2に沿って、将来像と、将来像の具体的なイメージ、課題の整理と施策の柱立てについてご説明させていただきましたので、ご議論をいただければと思います。よろしくお願いたします。

○大沼部会長 ありがとうございます。

かなりボリュームがあったのですが、全体的な将来像をつくり込むということで、ワークショップ等での市民の多様な意見を整理して、そこを出発点に、どうやって将来像をつ

くるか、どういう方向でやっていくかという説明をしていただきました。

今ご説明いただいた点について、不足している観点とか、今後の方向性として重要だと考えられるものはございますか。

○中野委員 よくまとまっていると思います。

ちょっと教えてほしいのですが、恐らく、最終的には本編と概要版の2種類をつくるのだろうけれども、本編のボリュームのイメージはどれぐらいですか。百数十ページですか。何ページぐらいですか。

概要版については、ほかの都市のものを見ると、東京都が16ページで、政令指定市は8ページ前後というのが多いのだけれども、そのイメージがつかめないの、どのぐらいのボリュームの中で記載するつもりなのか。それによって、全般の構成、スタイルが変わってくると思うので、教えてください。

○事務局（佐竹調査担当係長） 現在の第1次環境基本計画は182ページで、大分ボリュームがあります。

ただ、第1回の審議会でも環境基本計画の課題を出させていただきましたが、現在の計画は、かなり個別計画に踏み込むような形で、細かいレベルまで書き込んでいて、このボリュームになっています。

今回の2次計画では、個別計画までは踏み込まないと考えているので、薄くしていきたいと思っています。資料としてまとめると、だんだん増えていきますが、できるだけコンパクトにまとめたいと考えています。

概要版については、ページ数として、8ページ、12ページ、16ページが多いかなということで、そのあたりでまとめていきたいと思います。

○中野委員 私もそう思います。本編が180ページとか200ページだと、誰も最後まで読んでくれないという形になるので、少しコンパクトに編集していただくのが望ましいと思います。

それから、概要版については、いろいろなところのものをみると、直接的にぱっと見やすくするために、イラストなどを大分使っていますよね。文章よりもイラストのほうがはるかに多い、そういう編集の仕方をされているので、そういった形になっていくのが望ましいかなと思っています。

以上です。

○大沼部会長 概要版については、せいぜい8ページとか16ページだと思います。

本編については、日本では薄く読みやすくつくられています。ドイツでは、400ページとか、市民参加のレポートだけで1,000ページということもあります。読む人がちゃんと律儀にいます。いろいろ国柄もあるかなと思いますが、これは余談です。

ただ、確かに、誰が読んでも取っかかりやすく、途中で放棄しないようにというのは我々も留意して、これからつくってまいりたいと思います。

ほかにご意見はありますか。

○宮本委員 前回欠席して、一応、議事録を読んだのですが、忘れたかもしれないので、前回話題に出ていたら教えてください。

六つのポイントについては、絵でわかりやすく六角形になっているのですが、希望としては、多様性を入れてほしいと思います。

その理由としては幾つかあるのですが、まず、津軽海峡以北というか、北海道の独自性のある生態系を守っていく中で、札幌は、北方圏の最大の国際都市であり、情報都市だと思うので、その役割をもう少し果たしてほしい、そっちに向かってほしいなと思っています。

さらに、今の社会情勢として、環境問題とも切り離せないと思うのですが、インバウンドのことや差別ヘイト、貧困、格差、その辺も都市環境に物すごく影響がある社会問題だと思っていますし、災害のこともあります。その中で、生物との共生だけではなくて、都市の人の多様性も、もう少し環境として重要な位置づけにしてほしいと思います。

それから、北海道で暮らしている方はあまりぴんこないかもしれませんが、リサイクル、ごみ、清掃ということについては、本州では非常に差別的な問題を抱えています。しかし、それは北海道だからないと思っています。

例えば、エゾシカ対策として、これから皮革産業などはもっと発達してもらわなければいけなくて、その中で、北海道が出せる多様性のメッセージはあるのではないかと考えているので、もし考えられるようだったら、そこをちょっと考えていただくと非常にうれしいと思います。

以上です。

○大沼部会長 ご指摘のとおりだと思います。言われてみると、多様性というキーワードはどこにも出てこないですかね。

○宮本委員 多様性を入れると、七つで北斗七星みたいになっていいかなと思います。

○大沼部会長 今いただいたご意見については、自然環境の多様性と、人や社会の多様性という二つがあって、後者は、多様な方々が共存できるとか、最近の言い方であると寛容性ですが、異質なものをちゃんと受け入れる、そうしたこともどこかに入れたいという、ごもっともなご指摘かと思っています。

津軽海峡以北の自然環境というのは、資料1の1-2の現状の中で、社会情勢のところに入れられる話だと思いますし、将来のイメージとして、札幌の特徴からも導き出せるもので、資料2-2のボトムのところ足せる部分が若干あると思います。

それから、どう入れるのかはちょっと難しいのですが、人のところにも、多様性を受容する寛容性みたいなものを入れて、それが六つのアイコンの中にそれぞれ落ちていくというのを少しずつ足す、そのようなイメージですかね。

○中野委員 もう一つ星を入れてほしいということですね。

○大沼部会長 多様性を七つ目の星にするというご意見ですね。

○半澤（實）委員 2点お伺いいたします。

理念については、条例の第3条をそのまま文章化する予定ですか。

もう一点ですが、現行の計画書からすればページ数が減るとしても、それぞれの項目については、こういう具体的な計画あるいは施策、事業計画と連携関連しているということをページ下のほうにでも記入していただければと思います。

現行の計画書では、文言の説明が下のほうに記載されていますが、そういう関連文章があればわかりやすいので、この項目は札幌市の何々計画と関連しているということを注意書きとして入れていただければありがたいと思っています。

○事務局（佐竹調査担当係長） 1点目は理念についてですが、今回の案では、条例をそのまま記載することとしております。さすがに、条例の文言をいじるのは難しいかなと思いますので、条例で定められている基本理念があるのであれば、それをそのまま基本理念として生かしていきたいと思っています。

もう一つ、ほかの計画などとの関係についてですが、資料1の右側に示したとおり、1次計画において、環境基本計画と、それ以外の条例や計画との関係を整理しております。ただ、ここに載っていない計画などもたくさんあるので、それについては、2次計画をつくる中でもう一度整理していきたいと思っています。

その整理の中で、例えば、温暖化に関しては温暖化対策推進計画に書いているとか、そういったことは書いていきたいと考えております。

それから、注釈については、本書をこれから考えていくということもありますので、本文をつくっていく中で検討したいと思っています。

○大沼部会長 半澤（實）委員、今のご返事でよろしいでしょうか。

○半澤（實）委員 今後、具体的につくっていくときには、そういうふうになると思いますので、理解しました。

○半澤（久）委員 今言われたように、多様性が非常に重要であるということについては全く異議はなくて、生物も含んだ自然の多様性を環境基本計画に盛り込むのは妥当で重要だと思うのですが、人とか社会の多様性まで含むのはどうかなというのが個人的な意見です。

確かに、SDGsの中には、例えば、ジェンダーの平等とか、人と国などについていろいろなものを認めなさいということが入っていますが、札幌市の環境基本計画で、そういうことを匂わせるものまで含めるのはどうかなという気がして、多様性というキーワードを立てるのはどうかなと思います。

むしろ、いろいろなところに盛り込めるのではないかという気がするのです。特に、自然のところ、生物の多様性が一つのキーになっていますので、それは入ってくると思うのですが、先ほど宮本委員がおっしゃった人と社会に関するところは、環境とのリンケージはかなり難しいのではないかという気がします。

○大沼部会長 人や社会にかかわる部分で多様性を入れるのは難しいというご意見ですが、いかがでしょうか。

ちょっと悩ましいのですが、それを7番目として立てるかどうかについては、非常に難しいところがあると思います。

前回、石塚委員から、札幌市民といっても、すごくいろいろあるというご意見がありまして、これはどこに行ってもそうですが、地域のあり方、コミュニティのあり方も区ごとに非常に違うし、まちごとに違うということで、個人的には、そういったトーンは入れても、そんなに違和感はないのかなという気はします。

どういうトーンで入れるのかについては難しいのですが、例えば、ヘイトスピーチはやめようとは入れにくいと思うのです。ただ、理念として、そういうことをにおわせる書き方をしたり、人やコミュニティ、環境にかかわることとして、また、自然との共生、資源循環のところにも、織り込むことはできるのではないかという気はいたします。

○半澤（久）委員 思いつきですが、弱者とか高齢者の問題として、ごみや雪の問題などがありますので、そういうところでは環境問題とかかわりがあるとは思いますが。そういういろいろな意味での多様性について、人あるいは社会に関する多様性として位置づけることは差し支えないと思います。

○丸山委員 私がよく理解できずにいるのは、そもそも、ここに挙げられている六つのキーワードとは何なのかということです。今後、この計画を論じていく上で、このキーワードがどのようにキーになって論じられていくのか、そこがちょっと見えにくいなと思います。

特に、最初の人という表現についてですが、ざっくり人となっていますね。条例でいくと市民となるのが一般的かしらと思うのですが、あえて人としているということは、観光などを見据えて、ビジター、観光客も入れて人としているのか、さらに、世界に貢献することを目指して、世界の一人一人の人というところまで意識しているのか、その辺がちょっと読み取りにくくて、皆さんの議論に入れず、その手前でうろろうしております。

すみませんが、質問です。

○事務局（佐竹調査担当係長） キーワードについてですが、将来像として、世界に貢献していく持続可能な都市というのを描いて、それは具体的にどのような都市なのかをあらわすために導き出しました。

人については、市民と事業者に分けるのはいまいかなと思って、あえて人と書かせていただいたのですが、要は、札幌市に住んでいる人と、人と人とのつながりのコミュニティといった大きな枠ごとに、その将来像を描いていけないかなと思って導き出したものです。

つまり、2050年に、世界に貢献していく持続可能な都市が実現したとすれば、そこに住んでいる市民や事業者はどういう方なのかをあらわそうとしています。また、そこに息づいているコミュニティとしては、地域のコミュニティもあると思いますし、SNSみたいなものもあると思うので、そういった人と人とのつながりのコミュニティや、産業といったキーワードでイメージできるように努力したものです。

○丸山委員 ご説明、ありがとうございます。

私の理解からすると、今後、この計画を論じていくときに、このキーワードが主語の役割を持つという理解でいいでしょうか。例えば、市民は将来こういう姿になるといいな、そのためにはこうしていくぞとか、コミュニティが目指す姿はこうで、そのためにはこんな施策が必要だというように、いわば主語の役割を持つという理解でいいでしょうか。何か違いますかね。

○事務局（佐竹調査担当係長） そのとおりです。大丈夫です。

○東郷委員 関連した質問ですが、このキーワードについては、市民が目指す将来像とイメージとして、今度の環境基本計画にきちんと盛り込んでいくのかということです。

それと、資料２－６の施策の効果については、絵でわかるようになっているのですが、六つのキーワードと、三つの社会の実現がリンクしていないような気がします。このつながりが不透明であるがゆえに、こういった議論になっているのかなと思います。

六つのキーワードは、この審議会やワークショップでの意見を踏まえて、こういった絵姿がいいなと考えてアイコン化したと思うのですが、三つの社会の実現を図るために施策を打ったときに、これがこうつながっていくということについて、何となくはわかるのですが、少しわかりづらくなっているから、今のような議論になっているのかなという気はします。この辺は今後の工夫だと思いますので、もう少し図示化するというか、明らかにされてはいかがかと思います。これは意見です。

○事務局（佐竹調査担当係長） 一つ目のご質問は、このキーワードが計画に盛り込まれていくのかということでしたが、今回、案を出させていただいて、これで審議会として大丈夫ということであれば、表現の工夫は多少すると思うのですが、この将来像の書き方をベースにして計画に書いていきたいと思っております。

それから、資料２－６の施策の効果とのつながりが不透明ということについては、確かに、こういった取り組みがなぜ将来像につながっていくのか、説明が若干不足している部分がありますので、今後、計画をつくっていく中で詰めていきたいと思っております。

○丸山委員 また私の質問のところに戻ってしまって恐縮ですが、現在の案の六つのキーワードが主語になるという理解で間違いがないのであれば、配付していただいた資料２の右上にある札幌市の将来像の具体的なイメージのところ、六つのキーワードの人から都市・インフラまでが主語で、その答えというか、述語になるのが、右側に書いてある文言であるという理解で大丈夫でしょうか。

○事務局（金網環境計画課長） そうですね。そういうご理解で結構だと思います。

人やコミュニティがこういう状態になっているということについて、将来像、目指す姿の具体的なイメージとして描いております。

強いて言えば、ネットワーク・情報発信が主語となると、少し理解しづらいところはあるかもしれませんが、ネットワーク・情報発信の中で連携を図りながら、道内あるいは国内外の環境保全に貢献していくというイメージになろうかと思っております。

○大沼部会長 丸山委員、よろしいですか。

○丸山委員 ありがとうございます。

○大沼部会長 もともと、これは、大勢の市民の多様な意見を反映させて将来のイメージをつくろうというところから出発して、それをわかりやすくまとめた上で、政策的に出てくる施策の柱や重点施策とどう結びつけていくのかということ、東郷委員のご指摘にもありましたが、非常に難しいところではあります、それがうまくできれば、札幌市ならではの計画になっていくのかなと感じております。

○丸山委員 物わかりが悪く、何度も質問して恐縮です。

先ほど東郷委員からご質問があったことと重複すると思うのですが、資料2の右側の上に六つのキーワードがあり、その下に、資料2-6の施策の効果とリンクしているであろうものが、実現と推進として五つありますね。このかかわりが理解しづらいというのが東郷委員のご意見かなと思うのです。うなずいていただいて、ありがとうございます。自信が持てました。

そこで質問ですが、二つの表と、左側の図のつながりとしては、キーワードのところまでが上の表にくっついていて、下の体系図のような緑の濃い部分が下の表につながっているように読み取れるのですが、ここの構成がちょっと理解できないのです。どういう整理でこうつながっているのかわかりにくいと思うのです。

施策の柱だけが右に来ているのでしょうか。緑の三つの社会の実現や推進については、施策の柱と取組内容の表で読み取っていただければいいのでしょうか。どの辺で、どれがどう区切られているのかがあれば教えてください。

○事務局（佐竹調査担当係長） 表というのは、資料2にあるものですね。

まず、将来像と、将来像の具体的なイメージがあって、それを文字で起こしたのが右の表の上の部分です。人、コミュニティ、産業、ネットワーク・情報発信、自然、都市・インフラということにしております。

それで、下の施策の柱で、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会と書いてある項目と取組内容をあらわしたのが右側の下の表ですが、この取組内容については、資料1でいくと、6で書こうと思っている内容です。5のところまでで、実現と推進という5本の柱を立てて、その柱の中でどのようなことをやっていこうかというのを6で記載していこうと考えております。その例示をしたのが資料2の右下の表になっています。

ただ、この取組内容の詳細は資料3にまとめているので、後ほどご議論いただければと思っております。説明になっていたでしょうか。

○事務局（金網環境計画課長） 資料2の右側の表は、真ん中にあるイメージ図に簡単な補足説明をつけたコメントのようなものです。柱の中身としては大体このようなことを挙げているというのを後の資料で説明すると、簡単に補足説明をしていると見ていただければと思います。

○大沼部会長 よろしいですか。

○丸山委員 ありがとうございます。

○大沼部会長 次の資料3の説明に行ってから、ここに戻ってきたほうがわかりやすいですかね。

では、議事(2)として、資料3の説明をしていただいて、その内容についてご議論いただきながら、今のところに戻ってくるということにしたいと思いますので、説明をよろしくお願ひいたします。

○事務局(佐竹調査担当係長) 議事(2)の環境基本計画における各分野の取組内容について、資料3で説明させていただきます。資料は3ページになっています。

資料1の6で、各施策の柱における取組内容ということで柱立てをして、その柱の中でどのような取り組みをしていくのかということ網羅的に書いているのが資料3シリーズです。

資料3-1で、柱立てのうち、重点的に取り組むものとして、低炭素社会の実現、循環型社会の実現、自然共生社会の実現ということを書いて、資料3-2で、基礎的な課題として挙げた健康で安全な都市の実現のための取組内容を示し、資料3-3で、そういった直接的な環境対策を効果的に進めるための取り組みとして、環境施策の横断的・総合的な取り組みの推進ということで整理しております。

例えば、資料3-1の低炭素社会の実現については、徹底した省エネルギーの推進、大幅な再生可能エネルギーの導入、水素エネルギーの活用という項目を出して、具体的な取り組みとしては、家庭部門であれば、高断熱・高気密住宅の導入推進、省エネ設備の導入推進、住宅性能の「見える化」の推進といったことを書いております。

ただ、今回は基本計画ということですので、個別計画で書いてあるような具体的な取り組み、例えば、高断熱・高気密住宅の導入推進であれば、住宅に関する基準づくりや補助というところまでは記載せずに、家庭部門ではこのようなことをやっていくというレベル感を書いていければと思っております。その部分は、今後、計画書をつくっていく中で、さまざまな対策のレベル感などを見て整理していきたいと考えております。

今回のこの部会では、特に、資料3-3に記載している環境施策の横断的・総合的な取組の推進に関して、環境教育や、経済・社会、水素社会、また、コミュニティの活性化、人口減少・少子高齢化、さらに、道内連携、様々な主体との連携という部分についてご議論をいただければと思っております。

説明は以上です。

○大沼部会長 ありがとうございます。

今の説明で、不足している点、わかりにくい点がありますか。

○半澤(實)委員 ロードマップについては、資料3の項目を中心につくっていくという理解でよろしいでしょうか。

○事務局(佐竹調査担当係長) ロードマップについては、まだ具体的なイメージは出せていないのですが、例えば、取り組みの中で、2030年までに何%実現できるみたいな

項目があるとしたら、それを出して、どの程度まで進められるのかということを書いていければと思っております。

ここに記載されている項目の中で、定量的に出せるものについては出していきますが、例えば、環境教育みたいにずっと続けていくものについては、引き続き継続という感じになっていくと思います。

○半澤（實）委員 資料3について、確認と要望があります。

資料3-1の右側の産業廃棄物の適正処理の項目ですが、ここは、特にPCB、あるいは2019年度から始まるフロンガスの削減といった項目を内容とするのかというのが第1点です。

一つずつ聞いていきますので、お願いいたします。

○事務局（佐竹調査担当係長） 産業廃棄物の部分については、具体的な項目となってくると、かなり種類が多くなるので、どこまで書けるかというのは、レベル感を見ながらかなと思っております。

フロンガスは、ちょっと特殊なものになるかなと思いますが、確かに、今、規制がどんどんかかっていくということもあると思いますので、その記載の仕方は考えていきたいと思えます。

○大沼部会長 それは、多分、循環型社会の計画に書かれていく内容なので、ここでどこまで詳しく書くのかはちょっとわからないですが、後でレベルをそろえていくという話があったと思えます。

産業廃棄物の適正処理の推進ということでは、今ご指摘があったPCBや重金属の問題もありますが、それらは、循環型社会の計画に書かれることになると思うので、こちらの上位の基本計画でどこまで詳しく書くのかは、今後、そことのせめぎ合いということになると思えます。多少オーバーラップはあっても構わないと思うのですが、あえてPCBだけ書くのはちょっと違和感があるかなという気はします。

○半澤（實）委員 次に、雪の問題です。

資料3-2の右上の文言は、現行の「冬の道づくりプラン」の内容であろうと思えますが、その下の雪の有効活用の推進については、多分、具体的な計画案がないと思えますので、ぜひ、環境計画の中で取り入れていただきたいという考えを持っています。

ここに、北海道経済産業局がつくった「雪と氷と熱エネルギー活用事例集」という小冊子がありまして、北海道全体の例として68例、札幌市に関する例として、市が3例、民間が3例、北大が1例の計7例が出ています。こういうものも参考にして、市の公共施設の建設や大規模改修等の際には、熱エネルギーの活用をぜひ一層推進してもらいたいというのが私の考え方です。

もう一点、3-2の右側の気候変動に対する適応対策についてです。

この項目は、災害のことを中心にして書かれていますが、近い将来、北海道でも、健康の問題や農産物への影響という課題が出てくるのではないかと考えていますので、適応対

策として、災害だけではなく、健康や農産物への影響もこの欄で取り上げてはどうかと考えています。この点は質問です。

○大沼部会長 では、2点まとめて、事務局よりお願いします。

○事務局（佐竹調査担当係長） まず、雪の活用についてです。

資料3-2の上の雪とともに暮らせるまちづくりの推進の中で、例えば、円滑な冬期交通の確保の、雪道における交通事故や転倒事故の削減などについては、雪を所管しているところの計画がありますので、そちらでもカバーしていければと思っております。

また、雪の有効活用の推進については、温暖化対策の計画でも事例を書いております、コストとの兼ね合いなどもあり、なかなか難しい部分も多い分野ではあるのですが、検討は進めていきたいと考えております。

それから、適応対策については、農作物のことも記載しようか悩んだのですが、札幌の農作物について、どの程度、適応のために対策をとらなくてはいけないかというバックデータがなくて、書いていない状態です。ただ、適応対策を今後進める中で、いろいろ情報なども集めて考えていきたいと思っております。

○大沼部会長 今のでよろしいでしょうか。

○半澤（實）委員 結構です。

○大沼部会長 雪の有効活用の推進のところだけ、網のかけ方が違うのは、何か意味があるのですか。

○事務局（佐竹調査担当係長） ミスです。意図はないです。同じ色にしたいと思ったら間違ったということです。

○大沼部会長 特に網かけの仕方の意味はないのですか。

○事務局（佐竹調査担当係長） 意味はありません。

○大沼部会長 今、半澤（實）委員からご指摘があったのですが、これに対応する下位の計画が必ずしも明示的でなくて、お答えとしては、温暖化対策などの中で推進していくことになるというご説明ですが、そのような説明の仕方で大丈夫ですか。

○半澤（實）委員 今回の計画の中で、雪の活用について、ぜひ、一項目設けて入れていただきたいなというのが私の要望です。

○宮本委員 先ほど丸山委員が言ったことが、今ころ、やっぴんときたのですが、資料2をぱっと見ると、ちょっと混乱するなと思います。

一番上に、将来像というのが文章でありますよね。そして、将来像の具体的なイメージとしてアイコンがあって、その下に施策の柱があるのですが、施策の柱に書かれていること、イコール、将来像ではないのかということです。そこは違うのですか。そこは説明していただきましたか。

○大沼部会長 では、もう一回、説明をいただけますか。

○宮本委員 先ほど言っていたのですね。

○事務局（佐竹調査担当係長） 時間軸の問題かなと思っております。

資料2の将来像と、将来像の具体的なイメージについては、2050年ごろをめどにして、その姿を描いていて、その将来の姿を実現するためにどういう対策をとったらいのかということで、2030年までの対策について、施策の柱であらわしているという形になります。

ですので、右側の表にある例えば低炭素社会の実現であれば、徹底した省エネエネルギーの推進や大幅な再生可能エネルギーの導入推進について、環境基本計画の次期計画期間の2030年度までにどのようなことを進めていくかということに掲載していければと思っております。

○宮本委員 そうなると、真ん中の将来像の具体的なイメージについては、アイコンにすごく気がとられるのですが、具体的な姿がこの図自体に描かれているわけではないですよね。視点を六つ置いて、将来像なり施策の柱を分解していくということになるのですか。

○事務局（佐竹調査担当係長） そうですね。将来像を描いて、それがどこまで進んでいるかというのをどう評価していくか、実は悩んでいるところではあるのですが、例えば、人と書いてある部分について、その人が何%いるのかをはかるのは難しいと思います。

それで、これも今後の検討事項ですが、資料2-3で出したSDGsがツールとして使えないかなと担当レベルでは思っています。

現在、いろいろな国やNPO、NGOが、SDGsを進めていこうと検討されている中で、ゴールを決めるのはいいけれども、どこまで進んでいるのかは、どこかで評価する必要があると思うのです。その評価軸ができるのであれば、それを使って、持続可能な社会・札幌がどこまで進んでいるのかについて、ほかの都市との比較などができないかなと、おぼろげに考えていて、その中で、人とかコミュニティ、産業をその評価軸で見つつ、どのような状態かということを描いていけないかなと考えているところです。

○宮本委員 SDGsのマークは、ぱっと見ると、目指す方向がマークの中に表現されているのですよ。しかし、この上の図は、ただそこに人やコミュニティがあるということで、役割が全然違うので、このアイコンの意味はないのではないかと思うのです。札幌市の将来像の方針がはっきり出ているアイコンでないと伝わらないと思います。これを見て混乱しました。

○大沼部会長 事務局から補足はありますか。

施策の柱は、下から政策レベルで何をするかということ積み上げていくのか、上位の理念から個別に分解していくのか、両方あると思うのですが、低炭素社会の実現などを施策の柱として、細かな施策に分解して、最後に個別計画まで全部ひもづけしていくということで、そこが全部つながっていくと思います。

その上の2050年に向けての将来像の具体的なイメージについては、審議会の第1回のときに、石井委員から、あまり未来のことを書くと、格好いい近未来像だけができて、何だかわからなくなるという意見がありました。よくわからない近未来の絵が描かれているけれども、何だろうねとならないために、ワークショップで市民の意見をできるだけ吸

い上げて、それが集約された未来像を出して、そこを目指す姿とすることと、施策の体系等を対応づけなければいけないということがありました。

先ほど来、東郷委員、丸山委員がおっしゃっているとおり、施策の体系と、市民がつくったぼんやりとした2050年のイメージについては、この六つのアイコンだと誤解されかねないということだと思っておりますが、何かいい代替案はないですか。

○東郷委員 最終的な環境基本計画の構成の話かなと思います。

私は、最初に、イメージを最初に打ち出すのかと聞いたのですが、結局、基本計画で柱とする三つの社会の実現と、根本となる健康で安全な都市の実現が、施策という形で前面に出ると思うのです。そして、将来的に市民が目指す姿、あるいは審議会の意見を踏まえたイメージがその後についてきて、それを目指すために基本計画の施策に取り組んで実現する、そういうことになるのかなと思っています。

というのは、基本計画は総花的なものだと思いますし、そこに市民のイメージをリンクさせるのはなかなか難しいと思いますが、そうすると、基本計画は、総花ではなくて、例えばメリハリをつけるという形になると思うのです。

それで、例えば、市街地への自動車の乗り入れに規制をかけるとか、本当にあつたらいいと思うものを基本計画に盛り込んでいくのかどうかという議論にもなると思いますが、市民のイメージと、基本計画の施策、取り組みをつなぎ合わせることは大事で、そこをうまくつなげないと、おかしなものになるのかなと思います。

ですから、基本計画をつくるときに、イメージと施策の柱をうまく表現していかないと、今ここで混乱しているような議論になってしまうのかなという気はします。

○中野委員 ほかの政令指定市の基本計画を見ていると、どうも2通りあるように見えるのです。

福岡では、ワークショップ等で議論して積み重ねた目指すまちの姿をイメージを出しておいて、そこに向けて進むためのキーワードを抽出して、施策につなげていく、そういう書き方をしています。

ただ、東京は違います。東京は、具体的な政策が固まっているので、2020年と2030年の目標に向けて、こういう政策を最初からばちっとやっていくのだという形で、50年後なりに目指す都市の姿なんてあまり関係ないというスタイルでやっています。

その2通りがありますが、札幌はどちらを目指すかによって、今の議論は大分収束していくと思うのです。

資料2-2の図は大事で、ワークショップで積み上げてきたまちのイメージを3層に図式化していて、ここから抽出したのが六つのキーワードという切り口になっているわけです。そのキーワードを最初に持ってくるのであれば、目指す姿についてワークショップでこのように考えられているので、そこからキーワードを六つ取り出して、一応それに対応して施策の柱として五つ出てくるという流れをつくることもできるし、その辺の基本的な考え方をどうするかですね。

○事務局（佐竹調査担当係長） まさに委員がおっしゃるとおり、福岡のパターンは、まちの姿が絵として描かれていて、それに対してどうするのかという話で、東京も、まちの姿はないのですが、世界一の環境都市を目指すというコンセプトがあります。

○中野委員 そのコンセプトから出てくるということですね。

○事務局（佐竹調査担当係長） 柱をつくっているということです。

○中野委員 それで5本の柱を出しているのですね。

○事務局（佐竹調査担当係長） それで、イメージについてですが、審議会の中で大沼部会長が言われたように、絵を描くと、そこにとらわれてしまって、イメージがチープになるという可能性もあるので、今後ご議論いただきたいとは思っているのですが、今の段階では、絵を描くのではなくて、あくまでも説明をして、読んだ人の頭の中でイメージを膨らませていただくという形にしています。あとは、その書き方やカテゴリー分けなどをどうするかということかなと思っています。

○半澤（久）委員 将来イメージは、まさに市民を代表された方々が、2050年にこのようなまちの姿になってほしいということで、いろいろな切り口で出しているもので、施策の柱は、2030年をめどとして考えるものですから、必ずしも、どれとどれが結びつくとか、どれがどうだということではなくていいのではないかと思います。

基本計画で大事なのは施策の柱だと思うので、イメージについては、あくまでも、市民として、民間人や産業人など、いろいろな立場の人が、世界に誇れる札幌市にするという発想のもとに描いたもので、それをあらわしているという説明をされればいいのかと思います。

○大沼部会長 私も同じような感触を持っております。

2050年のイメージについては、あくまでも、市民があつたらいいなと思うものをつかき出し合ったこと自体に重要な意味があるわけで、計画としては、そこを目指すための施策の体系をつかって、2030年までにやることを示すということですから、1対1の対応を考えようとすると、誰も理解できないスパゲティの線をいっぱい書かなければいけなくなると思います。

ただ、通常によくある単なる理念から出発してしまうと、一見、計画としては美しい計画ができるのですが、多分、市民が見たときに、何か知らないけれどもきれいなことが書いてあるというだけで、実感できないで終わってしまうと思います。こちらとしては、最終的に、できた計画を市民の方々に実感していただきたいという思いもあつたと思いますので、その仕掛けとして、プロセスの中で、比較的早い段階で、市民が描いた将来のイメージを整理しておく必要があるのかなと考えているところです。

もちろん、そんなつくり方をしている基本計画はあまりないのは承知しておりますが、あえてそれをやるのが、市民の意見を反映させながらつくるという本旨だと受けとめましたので、その進め方を最大限生かしたいと考えたいですし、そのために皆さんのお知恵をいただきたいなと思っています。

○宮本委員 先ほど言った多様性のこととつながるのですが、長野県の基本計画の将来像を見ると、参加と連携による環境保全という項目がトップに出ています。ですから、例えば、札幌ならではの共生とか多様性の概念をそういう形で出してしまうのはどうでしょうか。長野県の基本計画では、2番目が地球温暖化対策と環境エネルギー政策で、3番目が循環型社会の形成になるのですが、そういう書き方はあるのかなと思いました。

もう一つ、東京が世界一の環境都市と先ほど言われていましたが、北海道は、地球に貢献する都市のほうがいいなと思いました。

○大沼部会長 長野県の情報、ありがとうございます。

参加と連携については、環境施策の横断的・総合的な取組の推進の中で、様々な主体の連携とあって、これはあくまでも土台ですね。

○宮本委員 そうですね。そういう考え方ですよ。

大沼部会長 あくまでも、いろいろなものの基盤、プラットフォームというのが今回の位置づけですね。そういう意味で、将来の目指す方向として、北斗七星のあそこを目指せみたいなものとはちょっと違うのかなという感じはありますね。

○宮本委員 地域の哲学というか、倫理というか、そういうものの表現だと思うのですが、長野県庁は環境施策を頑張っているという姿勢が見えるなと思います。

○大崎委員 世界の東京という話がありましたが、今回の案でSDGsのことが出ているので、北海道の札幌として、これをぜひ計画に位置づけていただきたいと思います。

午前中も発言をしたのですが、今、行政の中でSDGsを位置づけているところはまだまだ少ない状態です。今ぱっと思いつくのは一つで、四国の内子町がやっているぐらいです。

今回の計画にも、世界に貢献するとか、いろいろ書いてありますので、その意味で、札幌市もSDGsに貢献しているのだということを見せるために、環境基本計画にそういった理念を出していただければいいなと思います。個別計画と環境基本計画の境となると、すごく難しいとは思っているのですが、どうしたらいいですかね。難しいですが、個別計画をしっかりと引っ張っていけるような文言を入れていけるといいなと思います。

○半澤（實）委員 将来像については、195万人いれば、195万の将来像を描くでしょうから、その中で共通点を見つけ出すのは大変な作業だろうと思います。各分野においても、考え方が違う方もおられますし、従事している職場の関係からも、違う考え方が出てくるのではないかと思います。

それで、半澤、お前はどんな将来像を描いているのかと言われてたら、まさしく平凡で素朴な考え方です。私のイメージとして、水がおいしくて、空気がおいしくて、緑豊かで、健康で安全な空間都市がある、これが、50年後このような都市であってほしいなという基本的な考え方です。

その具体的内容が資料2-2に示されているのではないかと思います。ごみの問題など、いろいろな課題について、ライフスタイルはこうあってほしいとか、まちとしてはこうあ

ってほしい、あるいは、自然としてはこうあってほしいということを描いているのではないか、それが、これまでの会議で私が受けた印象です。そういう漠然としたイメージしかつくれませんが、この絵に描かれたような具体的な項目が、市民が考える共通的なイメージとして理解しています。

○大沼部会長 もちろん、195万市民の意見は一人一人違っていて多様ですし、今回の参加者の80名がどのぐらい市民を代表しているかという問題もあるのですが、議論していくと、今まさにおっしゃったような、誰もが願っている共通のイメージは間違いなくあることが確認できると思いますので、誰が見てもそうだと思う共通のゴールのイメージを描くのは、それなりに意味のある作業だと思っています。

それで、例えば、市民によって意見や価値観が鋭く対立することがものすごくたくさんありますが、それは一切言及していないわけです。ストレートに言えば、原発をどうするかとは一切書きません。それは、いろいろな立場があって、価値が対立して、これがみんなの意見だと書けないからです。

ただ、これがみんなの意見だと書けるもの、誰もがいいと思えるもの、将来の共通のイメージとして持てるものを将来像として確認していく作業は、それなりに意味がある作業かなとは思ふ次第です。

そして、あの星まで飛んでいくことが本当にできるかどうかは別にして、そこがみんなの目指すべき方向だと示すことが、市民が一体感と誇りを持てることにもつながってくるし、そういうものがないと、最後に、一人一人のライフスタイルなどの話に落とすときに、話ができなくなってしまうと思うので、そこをにらんで、こういうものをつくっているのかなと理解しております。

○中野委員 資料2-5についてですが、施策の柱として、札幌市は何をやるのかということで、非常に重要なアピールポイントが5項目挙げられています。私は、シンプル・イズ・ベストで、シンプルが好きなだけけれども、施策の項目の表現がシンプル過ぎて、札幌らしさが出ていないと思います。ほかの都市の政策を見ると、その都市の表現をもう少し追加したような表現を入れています。

シンプルなほうが後々まとめやすいとか、イラストにしやすいということはあるけれども、例えば、低炭素社会の実現については、『スマートエネルギーネットワークによる低炭素社会の実現』とする、それから、循環型社会の実現については、札幌市はごみの減量に前から取り組んで徹底してやっているわけだから、『ごみの減量と資源を生かす循環型社会の実現』とする、また、自然共生社会の実現については、『ゆたかな自然と多様な生物との共生社会の実現』とするなど、少し札幌をイメージさせるような形容詞があったほうがいいのではないかという感じがするのです。

もう一つ、その下の健康で安全な都市の実現については、それはそのとおりなのだけれども、感覚的には、もう少し札幌をイメージさせるように、『水と緑に恵まれた健康で安全な冬も快適な都市の実現』という表現が必要でないかなと感じるのです。私は会社の中

では、シンプル・イズ・ベストで、徹底的に余計なところはそぎ落としてオペレーションしているのだけれども、市民に向けて出すときには、そういう表現のほうがいいのではないかなという感じがします。

以上です。

○大沼部会長 確かに、どの都市に行ってもありそうな文言では芸がないというのは、おっしゃるとおりかなと思います。札幌らしさをもう一言ずつ入れていただきたいたところですが、事務局で後ほど対応いただけますよね。

○事務局（佐竹調査担当係長） そうですね。札幌らしさを出すのに非常に悩んでいた部分だったので、ありがとうございます。

○宮本委員 今の話の続きですが、例えば、人のマークについても、チカホのトイレのマークは、マフラーをしていて、ほかの都市の人がすごく喜んでいきます。小さなことかもしれないけれども、そういうことも大事にするといいいかなと思います。

○東郷委員 札幌市らしさという話に関連してですが、北海道が計画をつくる時には、北海道らしさや北海道独自のものを打ち出そうと必ず言われます。ぜひ、札幌市にも独自性などを打ち出していただきたいなと思います。

ちなみに、環境首都の話がありましたが、北海道は、アジアの環境首都づくりを目指すと言っております。それで、エゾシカ対策とか知床自然遺産といったことを打ち出しているのですが、道内外のみならず、国外にも発信できるような札幌市らしさを打ち出していただければと思っておりますので、よろしくお願いします。

○大沼部会長 アイデアはありませんか。

○東郷委員 札幌市らしさですから、まさに、市民のワークショップの中で出てきたことにヒントがあると思います。先ほど言われたトイレのマークのことも身近な話ですし、そういうものも大事かなと思います。そういった人との連携が環境保全につながることもありますので、ぜひ、そこはみんなで考えていきたいなと思います。よろしくお願いします。

○大沼部会長 資料1の2に書いてある特徴とか、市民ワークショップで出てきた幾つかのキーワードをもう少し掘り起こして、中野委員からご指摘があったように、資料2-5について、形容詞としてワンフレーズずつ突っ込むと札幌市らしさも出てくるし、市民が出した意見、将来像とのつながり感も少しイメージしやすくなるのかもしれないですね。

○石塚委員 ワークショップでの言葉をかなり拾ってつくられたということがよくわかったので、今までにない形でまとめられているとは思っています。

ただ、本題からずれるかもしれないのですが、気になることがあります。

目指す姿も、将来像も、皆さんのご意見をいただきながら、とてもいいものができ上がるということは確信できるのですが、私が環境にかかわる仕事をさせていただいている中で、それを誰がどうやって実現するのかと感じています。

というのも、全部が絵に描いた餅に終わって、50年先、何も進んでいなかったということが起こり得る、それが今の札幌市の経済的な実態ではないかなと思うからです。予算

のつけ方や削り方についても、とても、環境都市・SAPPORO（仮）を目指されているようなものではないと感じておりますし、そういう流れではないかなと思います。

私たちは、もっとリデュースやリユースを進めていこうと申し上げていますし、この中でも、それが大事だと書かれているにもかかわらず、現場では乖離があるのです。乖離があるどころか、温度差なのか何なのか、無知なのかと思うぐらい現場は違います。

それで、人については、すごく他人事のように、市民市民と言っていると思います。札幌市役所の職員も皆さん市民じゃないですか。だったら、自分たちが、将来、定年退職された後も、このまちで過ごされるとするならば、どのようなまちを描くのかということを考えていただきたいのです。

せっかく、市の職員という立場で施策の立案ができるのですから、自分たちが住みよいまちづくりを計画したり予算化したらいいのになと思うのですが、実態は違います。予算に縛られて、その中でいかにパフォーマンスができるかということになっていきますし、ましてや、中長期的な計画ができないと思います。人事異動によって2年でかわって、全く計画性のない施策がとられている、それで果たしていいのでしょうか。

今、結果を出すのではなくて、きちんと3年先、5年先を見据えた形で今やることをしなければいけないのに、それが現場ではできていないのです。きっとやりたいのだろうけれども、そうできない組織なのではないかなとずっと感じていまして、せっかくできた2050年の目指す姿を実行できるものにしていくためには、何をしたらいいのかということ議論できないかなとずっと思っています。

以上です。

○大沼部会長 本当に耳の痛い話で、絵に描いた餅に終わらせないためには、どうしたらいいのかというのは、僕自身もここ10年ぐらいずっと考え続けてきていることで、難しいところです。

予算や人事異動のことについては、市の中の事情かなとは思いますが、他人事にしないためには、この後、計画がだんだんできていくときに、みんなが当事者性を持てるようにする仕掛けも同時並行で考えなければいけないかなと思います。

○中野委員 今おっしゃったことは大事なことで、各都市でもそうですが、推進体制とロードマップをつくったら、きちんとした進行管理をどの主体でやるのかということになると思います。委員会でやっているところや、市の環境局でやっているところもあるみたいですが、進行管理の主体と事業主体をロードマップの中で明確に規定していくことが大事だと思います。

それから、先導プロジェクトと書いてあるけれども、市民の目に見えるリーディングプロジェクトについて、短いスパンの中で、一つ、二つ、三つ仕上げていくことが大事だろうと思うのです。そういう観点でいくと、今日の段階ではまだ案はできていないでしょうけれども、資料-1の7と8の具体的な内容は非常に大事なポイントになるのではないかなと思います。

○宮本委員 まさにそこが大事ですね。

先ほど長野県の例を出したのですが、昨年、審議会でエネルギービジョンをつくったとき、長野県庁の田中さんに読んでもらったら、できは非常にいいけれども、あしたから絶対に動かなきゃいけないという拘束力、縛りが全然ない、こういうものは、あしたから動かなきゃいけないということを絶対に入れ込まないと役に立たないとすごく言われました。それは、どこのタイミングでこの中に入れていけばいいのか、わからなくて、難しいのですが、それをこの部会で考えていくということをお願いできたらと思います。

○大沼部会長 今のご意見については、資料1の全体構成でいくと、7と8になると思います。今後、事務局から資料が出てきたら、皆さんからご意見をいただくというふうに進んでいきますが、非常に重要な点かと思います。

また、中野委員がおっしゃった工程管理についても、どういう体制をつくっていくのかという骨格をある程度つくっておかないと、一体何だろうかとなってしまいます。

それから、あしたからやらなきゃという拘束力については、この手の基本計画で拘束力を持たせるのは非常に難しいのですが、拘束力がなくても、誰もが、あしたから一步を踏み出さなきゃならないと思えるようなものになったらいいなと願っています。

○石塚委員 補足します。

結果を求めると間違うと思うのです。今まで、常に結果を求めて、その結果に対して、どこまでできたかという評価軸みたいなもので評価してきたのですが、それがどうしても間違ってしまった。

私は、結果を求めるよりは、結果を追うというか、育むというか、そういうものであってほしいのです。

例えば、コミュニティづくりなどをやっている、1年や2年では絶対に結果は出なくて、3年、5年、10年かかるのです。そのときに、担当者が2年や3年で結果を求められちゃうと、それはやっぱりだめですね。

この計画を長いスパンで立てられるのであれば、結果を追うという形で育っていくようにする、あるいはみんなで育てていくという気持ちで取り組むことが必要だと思います。もし、そこで評価をして、達成していなければ、テストの採点ではないので、どこが悪かったのかをきちんと省みる、そういったことで、ある意味、これからのコミュニティとか人間力にもなっていくのかなと思います。

○大沼部会長 結果は、求めるものではなく、育むものなのですね。

○石塚委員 もちろん、育むものでもあるし、追いかけていくものでもあると思います。

○大沼部会長 追いかけていくのですね。そうですね。ぜひ、そういうものにしていきたいと思います。そのためにも、これが我々が追いかけていく姿だということをわかりやすく明確に示し、かつ、自分のことだと思えるものに仕上げていかなければと思います。

ほかに、ご意見、ご質問はありますか。

○丸山委員 今日は、とてもいい議論が進んでいると思います。

ただ、私自身が今後もう少し考えたいと思う点が今日の議題に出たのですが、なかなかすっきりと結論は出ていないように思います。それは、どうやってこれを推進していくかということに尽きます。

例えば、資料2-6に、全体を見渡す図が出ているのですが、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を実現するのはなぜなのかについては、健康で安全な都市に住み続けたいからということに集約され、そのためにどうやって推進するかという図になっていますね。

それで、目指す社会と取り組みの推進が密接な土台としてつながってはいるけれども、一体になっていないところにやや不安があります。これまでの計画もそうですが、最後にそれをどう推進するかというところに届くまでに、180ページ読まなくてはいけなくて、非常にエネルギーを使う、そこが心配です。

さらに、現在の計画の目指す社会の方向性としては、地球環境保全に貢献する都市づくり、持続可能な都市づくりに並んで、参加と協働による都市づくりが出ているのですが、それと見比べると変わってきているので、その点はもう少し考えたほうがいいかなという心配事です。

また、前回の資料では環境共生社会となっていたのが、最近は自然共生型という表現が一般的だとして、今回は、自然共生社会の実現という文言になりましたが、環境より自然のほうที่狭くなるので、ぐっと自然に特化した内容になっていきそうな気がします。

そういう案においては、自然と都市生活というか、都市環境というか、言ってみれば人間も含めた生態系のような概念が薄くなってしまっているのではないかとちょっと心配します。特に、人間同士の共生というか、寄り添いとか協力などが、最後の8の推進のところでもよく述べていけるかどうかが大変なことであると思っています。

上位計画である札幌市まちづくり戦略ビジョンでは、都市の姿として、一般的にソーシャルキャピタルと言われる人間自身の知恵や工夫も非常に大きな財産であることが強調されていますので、環境まちづくり検討部会として、こちらの色をどこかでもう少し強く出していくことができないかなと薄っすら考えていました。

それで、人間同士の知恵や工夫を生かす都市というのか、人間同士の知恵や力が寄り添ってつくる環境首都・SAPPORO（仮）というのか、ちょっとうまく言えませんが、その辺に関して皆さんはどのように感じられているのか、コメントをいただけたらうれしいと思います。事務局というより、委員の皆さんのお考えや感じ方を伺えたらうれしいと思っています。

以上です。

○大沼部会長 丸山委員から重いボールを投げられました。

私個人として思ったのは、資料2-4の③効果的な対策の推進を受けて書かれている環境施策の横断的・総合的な取組の推進として、一つだけ連携というのがあるけれども、本来であれば、参加協働をもう少し前面に出さないといけないのかなということです。

それから、どこに入れたらいいかはわからないのですが、今のままだと、人同士の共

生、あるいは、社会の中でいろいろな人が一緒に生きていくという意味での共生がこぼれ落ちてしまっています。“自然共生”だとそのニュアンスは出せないけれども、“環境共生”ならそのニュアンスは入るかなということです。

その意図するところは、生活知や実践知みたいな、そこで暮らすがゆえの知恵も入れたいということです。今だと、それが入る形になっていないので、入る形にしたいですね。

今の点について、ほかの委員のご意見はいかがでしょうか。

だんだん、プラットフォームの話じゃなくなっているかなという感はなきにしもあらずですが、いかがですか。

○宮本委員 今お二人がおっしゃっていたことで、私が最初に言ったことが解決すると思います。

また、例えば、資料2で、自然のところに、「豊かなみどりや生物多様性が保全されている」と書かれています。それで、私の周りでも議論があるのですが、北海道の自然を保全するというとき、生物多様性を守るのか、生態系を守るのかについて、多様性なら外来種でも何でもOKになっちゃうと誤解されるのではないかという意見がよく出ます。

先ほど言われた人の多様性、自然の多様性、あるいは自然との共生、環境共生という言葉のニュアンスの違いについては、結論をこうしてくださいとは言えないのですが、慎重にならなければいけないと思います。

ただ、多様性の中には、自然、生物と言われるものと人間の両方が含まれているという札幌なりの整理があっているのかなと思います。これは、とても難しいなと思いつつ言っています。

○大沼部会長 おっしゃる点はごもっともだと思います。これはどこに入れたらいいですかね。

今日すぐに意見が出ないようであれば、一旦、お持ち帰りいただきたいと思います。別に委員が招集されていないときでも、随時ご意見はいただいてもいいですよ。

○事務局（佐竹調査担当係長） もちろんです。

○大沼部会長 事務局も、我々も、よりよい中身にしていきたいので、ぜひ、こうしたらいいのではないかと案をお寄せいただけたらと思います。

○半澤（實）委員 もう1点、資料2-4の右側の図についてです。

低炭素社会、環境型社会、自然共生社会という3項目があって、その下に、健康で安全な都市の実現という表現が挟まっています。これは、真ん中の三角（図の▲表示）の上に来ていいのではないかと思います。そして、この3項目の柱を支えるために、横断的・総合的な取り組みが必要だという形のほうがいいと思います。

健康で安全な都市の実現というのが真ん中に挟まっているのはどうかなと思います。私の考え方が違うのかもしれませんが、この三つの柱が実現することによって、健康で安全な都市が実現できるということで、この図の真ん中の矢印のところを持ってきたほうがいいのではないかと考えているのですが、その辺はいかがですか。

○事務局（佐竹調査担当係長） 健康で安全な都市の実現については、基本的に、きれいな空気や水を維持していくために、今までもやってきて、これからもやっていくし、新たな問題が出たら、それに対応していくという考え方で書いています。それをベースとして確保した上で、温暖化対策、廃棄物対策、自然共生対策がとれるのかなという感覚で書いています。

それで、横断的・総合的な取り組みについては、恐らく、健康で安全な都市の実現にもかかわってくると思います。例えば、雪の対策として、パートナーシップをとって除雪をやっていくといった取り組みもあると思いますので、横断的・総合的な取り組みについては、①と②の課題の両方にかかわっていて、その上の低炭素社会、循環型社会、自然共生社会と、健康で安全な都市の実現は、ある意味、並列に見ていいのかなと考えて、このような図をつくったところです。

○中野委員 考え方はわかりますが、資料2-4の左側の表記では、健康で安全な都市の実現が①になっているでしょう。それで、②を読み込むと、それが真ん中の段になるのはちょっと違和感がある。課題と施策は1対1という観点からすると違和感があります。そういう意味で、半澤（實）委員がおっしゃったとおり、上に上げてもいいのかなという気はしないでもないです。文案の気持ちはわかるけれどもですが。

○大沼部会長 多分、こちら辺は、並べ方と見せ方の問題だと思うので、図の書き方を工夫していただくしかないのかなと思います。内容についての理解では、そんなに大きな違いはないと思っています。

ともかく、環境のことについて言えば、日本には、公害と戦ってきた歴史があるわけですし、札幌も、スパイクタイヤ問題など、いろいろありました。そういう公害に苦しむのは論外で、それは過去のものにしたいし、そんなことは二度とあってはいけないと思うのですが、今後とも、そういう規制はがちっとかけていくということは外すわけにはいかなないので、それをどういうふうに置くとちゃんと伝わるかという話だと思います。

それでは、まだ言い残したことがあるとか、私も今日はすごく悶々としているのですが、悶々としていることがありましたら、どうぞ。

○丸山委員 忘れないうちに、小さいことだけ、幾つか述べさせてください。

まず、全体の表現についてです。

今後、細かく書いていくことになるので、現状で評価するのはどうかと思うのですが、できるだけ数値を伴った記述で、論理的に納得感が得られる表現が好ましいと思います。例えば、「広大な森林」とありますが、市域の何%を占めているという書き方のほうがいいと思います。

また、「緑被率は他の政令市と比較して高くない」という評価をしています。そういう評価でいいのか、何%というほうがいいのか。評価なのか事実なのかということは区別して書いたほうがいいと思います。

数値を伴った記述で、論理的な納得感を高めたいということです。

それから、景観という文言が何カ所か出てくるのですが、なかなか目立たないので、もうちょっと見やすい上位の言葉として持ってきてはいかかかなと思います。

札幌市の都市景観条例がありますが、これは都市の景観のことで、まちなかの景観、借景として山々の緑があるぐらいのことは書かれているのですが、もう少し広い意味での環境首都・SAPPORO（仮）の景観というものも打ち出していいのではないかと思います。

理由としては、自然と人の活動の結果が総合的に見える化されたものが景観で、それが判断の基準になるのではないかと思うので、景観をもう少し打ち出してはどうかということです。

そして、現在の内容だと、循環型などというのは、日常生活からやや遠い感じがするのですが、健康や安全の根底として、誰一人置き去りにしないためには、まず、一人一人の健康や安全という観点で、例えば、最も日常的な衣食住みたいなイメージがもうちょっと強く出てきてもいいのかなという気もしています。どこにどのように反映するかは、今後、全体が出てきてからの調整になると思います。

もう一つ、（仮）となっているので、いつも気になって見ているのですが、環境首都・SAPPORO（仮）としているのは現状で何か意味があるのか。それとも、今後、SはサステイナブルのSにするとか、何か考えるのか。現状で、世界に貢献するにはこうだろうという理由なのか。それがあるのであればお答えいただきたいと思います。

○事務局（佐竹調査担当係長） 現状では、まさに世界に貢献していくということで、世界を見据えることとしているのですが、（仮）をとるのは、本当に最後の最後でどうかなと思っております。

○大沼部会長 結構重要な指摘が最後に幾つか出てきましたが、景観、ランドスケープをどう考えるかというのは、いろいろあるところで、これ一つで結構議論しなければいけないと思います。

議論を積み残した感じも随分あるのですが、時間になりましたので、本日は一旦区切って、引き続き、皆さんからのご意見、議論をいただけたらと思います。

3. その他

○大沼部会長 それでは、今後の日程も含めて、最後に、事務局から連絡等をお願いいたします。

○事務局（金網環境計画課長） 活発なご議論、ありがとうございました。

事務局から、今後のスケジュール等についてご説明いたします。

参考資料1をご覧くださいと思います。

今日午前中に、環境問題対応部会を行い、今、まちづくり検討部会ということでご議論いただきましたが、両部会でいただいたご意見を踏まえ、今後、第4回の全体会議での検討に向けまして、骨子案の資料を作成してまいりたいと思います。

第4回会議では、事務局で作成した骨子案の資料について検討いただき、その上で、その後、中間答申の作成作業に進んでまいりたいと考えております。

スケジュールでは、第4回会議の後、必要に応じて各部会を開催することにしておりますが、11月の第4回会議で、ある程度、骨子案が煮詰まりましたら、各部会は開催せずに、起草委員会での中間答申の検討に移ってまいりたいと考えております。中間答申の作成に当たっては、途中で各委員の皆様にもメール等でご意見を伺いながら進めていこうとイメージしております。

第4回会議の日程については、今のところ、11月下旬ごろと考えておりますが、具体的な日程については、後日改めて調整させていただきたいと思っております。

年末も近づいてくる時期で、委員の皆様におかれましては、大変忙しい中、出席をお願いすることになるかと思いますが、引き続き、ご協力をお願いいたします。

事務局からは以上です。

○大沼部会長 ありがとうございます。

○大崎委員 宣伝させてください。

皆さんのお手元にチラシを配らせていただきました。

SDGsに関して、10月29日と30日に、北大で「国際シンポジウム～SDGsで貢献する高等教育のあり方」が開催されます。

その中の分科会として、EPO北海道が、学生はどういうふうに関与していくのか、世界目標に取り組んでいるのかみたいなことをやりますが、大沼部会長にもご協力をいただいているところで、

皆様の周りには、学生とかかわりがある方もいらっしゃると思いますので、ぜひ、ご周知をよろしくお願いいたしますと思っています。SDGsを北海道に広めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○大沼部会長 宣伝、ありがとうございます。

4. 閉 会

○大沼部会長 以上をもちまして、まちづくり対応部会を終了します。

本日は、活発な議論、ありがとうございました。

以 上